



# セルビアへようこそ

平成29年4月

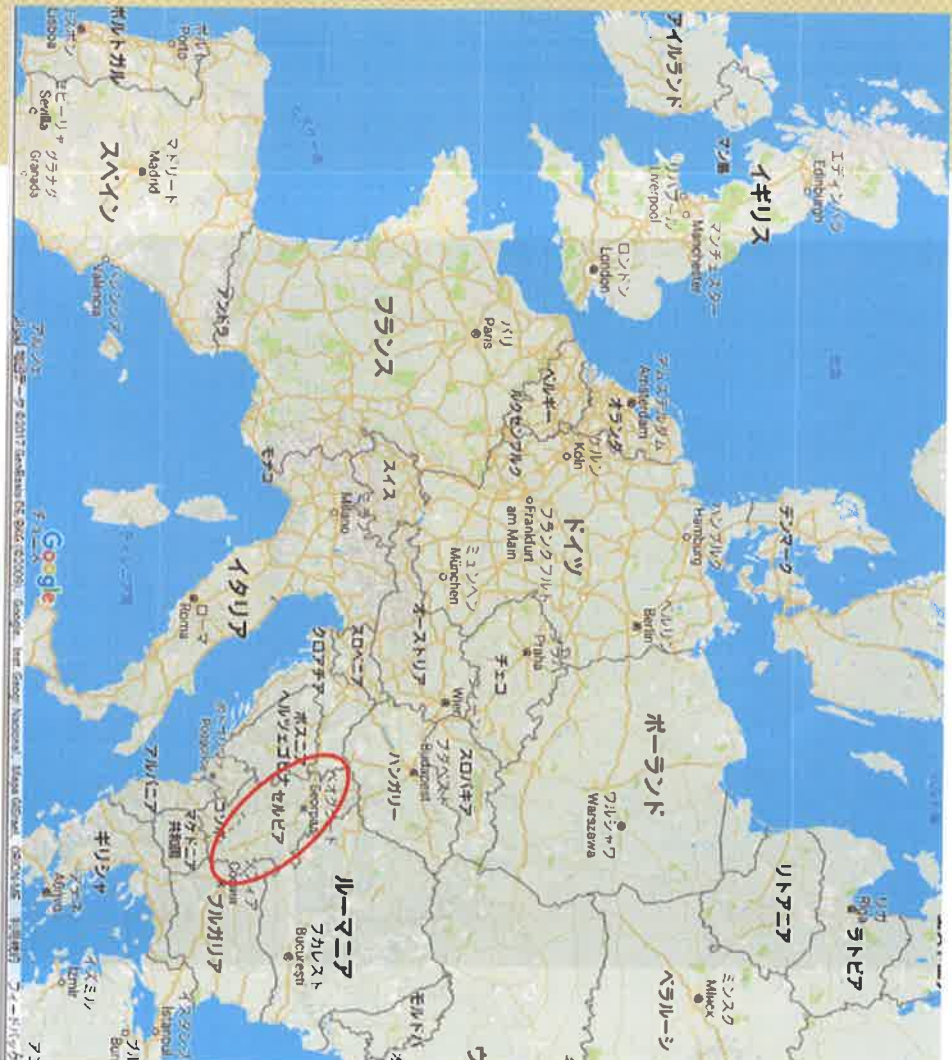
在セルビア日本大使館



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

# セルビアの位置と地理

- ◇ヨーロッパの南東、バルカン半島に位置する内陸国。
- ◇主要都市：首都ベオグラード、北部ヴォイヴォディナ自治州の州都ノヴィ・サド、南部の中心ニーシュ。
- ◇ドナウ川が東西に流れ、ベオグラードでサヴァ川と交差する。



Google Map



Google Map

## 基礎データ

面積: 77,474平方キロメートル(北海道とほぼ同じ)

人口: 712万人(2011年国勢調査)

首都: ベオグラード(人口164万人)

民族: セルビア人(83%), ハンガリー人(4%)等(2011年国勢調査)

言語: セルビア語(公用語), ハンガリー語等

文字: キリル文字(公用文字), ラテン文字を併用

宗教: セルビア正教(84%), セルビア人), カトリック(5%, ハンガリー人), イスラム教(3%)  
等

通貨: デイナール(1デイナール≒約1円)

GDP: 341億4, 100万ユーロ(日本の100分の1以下)

1人あたりGDP: 4, 626ユーロ(ともに2016年セルビア財務省)

# 略史

紀元前3世紀	ケルト族が支配。
紀元前1世紀頃	ローマ帝国が支配(現セルビア領内で18人のローマ皇帝誕生)。
5世紀末	東西ローマ分裂後は、ビザンチン帝国が支配。
6～7世紀	セルビア人等スラブ系民族がバルカン半島に定住、キリスト教(セルビア人は正教)を受容。
11世紀	セルビア王国建国(現在のコソボを含むセルビア南西部が中心)、14世紀のドラウシン王の時代に大いに栄える(コソボは「セルビア民族揺籃の地」)。
1389年	オスマン帝国に敗北(「コソボの戦い」)、その支配下となる。
1878年	ベルリン条約によりセルビア王国の独立承認。
1918年	第一次世界大戦後、「セルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国」(後、「ユーゴスラビア王国」)建国。
1941年	第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによる占領。ユーゴスラビア王国消滅。
1945年	「ユーゴスラビア連邦人民共和国」(6共和国で構成、1963年に「ユーゴスラビア社会主義連邦共和国」に改名)の1共和国となる。
1992年	ボスニア紛争などによるユーゴ解体の中で、モンテネグロとともに「ユーゴスラビア連邦共和国」を建国。
1999年	コソボ紛争により、NATO空爆を受ける。コソボが国連の暫定行政下となる。
2003年	「セルビア・モンテネグロ」に国名変更。
2006年	モンテネグロの独立(6月)により、「セルビア共和国」となる。
2008年	コソボがセルビアからの独立を宣言(2月)。
2014年	EU加盟交渉開始(1月)。

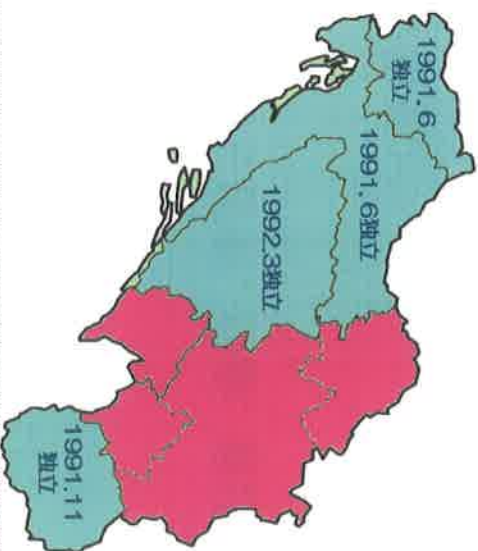
①ユーゴスラビア社会主義連邦共和国(1943-1991)

- 6共和国・2自治州で構成。人口2,300万
- チトー大統領による非同盟外交・自主管理社会主義
- チトー没(1980年)後、共和国間・民族間対立表面化



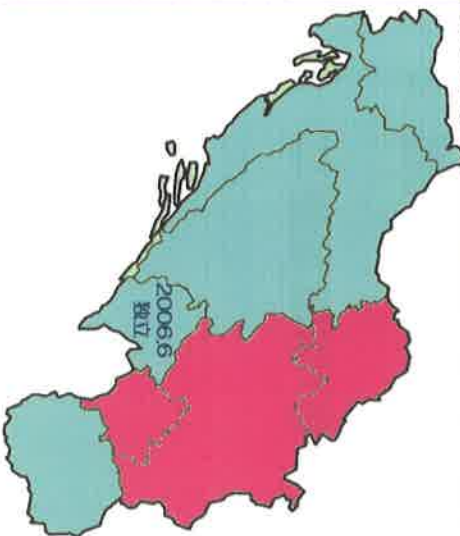
②ユーゴスラビア連邦共和国(1992-2006)

- 1991年、旧ユーゴ紛争勃発・解体化。1992年、セルビアは
- モンテネグロとユーゴ連邦共和国(人口1,000万)へ
- 1999年、コソボ紛争・NATO空爆後、コソボは国連暫定行政下へ
- 2000年、セルビアで民主化、ミロシヴィッチ退陣。
- 2003年、国名を「セルビア・モンテネグロ」に改称。



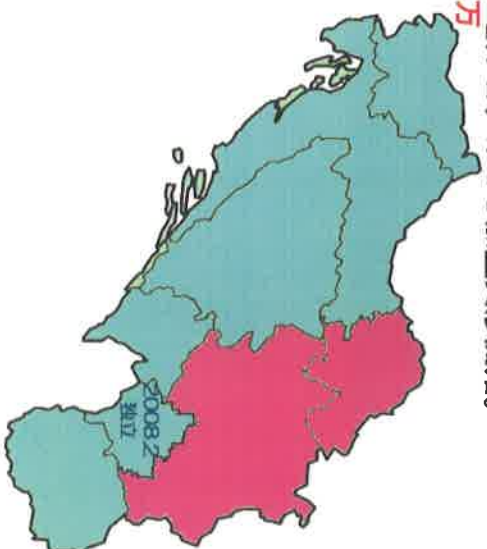
③セルビア共和国(2006-2008)

- 2006年、モンテネグロが独立。セルビア共和国(人口940万)へ
- 2007年、国連特使が国際社会監督下のコソボ独立を提案。



④現状

- 2008年2月、コソボ(人口200万)が独立。
- 2009年12月、セルビアがEU加盟申請。
- 2014年1月、セルビアのEU加盟交渉開始。
- 人口712万



# セルビアの政治体制

1. 立憲共和国(憲法2006年11月制定)
2. 議院内閣制(一院制, 250議席, 任期4年, 全国一区の拘束名簿式比例代表制, 選挙権18歳以上, 被選挙権18歳以上)
3. 大統領制(任期5年, 直接選挙, 軍統帥権など形式的権限のみ(に限定))
4. 政府(大統領が指名, 首相が組閣, 議会が承認)
5. 三権分立(司法は, 最高裁判所を最終審とする三審制。別途, 憲法裁判所あり)
6. 地方自治(ボイボディナ自治州, 27市, 147町村)



国会議事堂(写真:セルビア議会HP)

# セルビア要人

2017年4月1日現在



アレクサンダル・ヴッチ首相  
(Mr. Aleksandar Vučić)

1970年3月5日生(47歳)  
ベオグラード大学法学部卒

**略歴**

セルビ局での勤務を経て、  
1993年 セルビア急進党(SRS)に入党  
1994年 SRS事務総長  
1996年 “ジュネー”スポーツセンター所長  
1998年 情報大臣  
2000年 ユーゴスラビア議会議員  
2004年 セルビア議会議員  
2008年 セルビア進歩党(SNS)副党首  
2012年5月 SNS党首代行  
2012年7月 セルビア共和国第一副首相兼国防相  
2012年9月 SNS党首  
2013年9月 セルビア共和国第一副首相  
2014年4月 セルビア共和国首相

●2010年10月、21世紀パートナーシップ促進招へいスキームにて訪日、親日家。  
●2017年4月の大統領選挙に立候補し、当選。同年6月に大統領就任の見通し。



トミ斯拉フ・ニコリッチ大統領  
(Mr. Tomislav Nikolić)

1952年2月15日生(65歳)  
レ・サド大学経済・工学経営学部卒

**略歴**

建設会社、衣服製造会社、公益企業での勤務を経て、  
1991年 セルビア急進党(SRS)創立に参加、  
副党首就任  
1993年 セルビア議会議員  
1998年 セルビア共和国副首相  
1999年 新ユーゴ連邦副首相  
2003年 シェンジュSRS党首がICTYに収監され、  
SRS党首代理となる  
2008年9月 議会新会派「進めセルビア」  
を結成し、SRSを離党  
2008年10月 セルビア進歩党(SNS)創立  
2012年5月 セルビア共和国大統領  
党首就任  
(大統領就任に伴いSNS党首を辞任)

●2004年と2008年のセルビア大統領選では第1回投票で1位となるが、いずれも決選投票では現職のタチヤナ・ヴッチ大統領に破れ落選。2012年の大統領選挙では第1回で2位となるも、決選投票でタチヤナに勝利し大統領に当選。  
●大統領としての任期は2017年5月末まで。



マヤ・ゴイコビッチ議会議長  
(Ms.Maja Gojković)

1963年5月22日生(53歳)  
レ・サド大学法学部卒

**略歴**

弁護士事務所勤務を経て、  
1991年 セルビア急進党(SRS)入党  
1996年 ボイボディナ自治州議会議員  
1998年～1999年 セルビア政府無任所相  
1999年～2000年 ユーゴスラビア連邦共和国副首相  
2004年～2008年 レ・サド市長  
2008年 SRSを離党し、国民党(NP)を設立。  
NP党首に就任。  
2010年 NPがセルビア地域連合(URS)に参加。  
2012年 NPがURSを離脱し、セルビア進歩党  
(SNS)に合流。SNS幹部会メンバーに就任。  
2012年～2014年3月 セルビア議会議員  
2014年4月～ セルビア議会議長  
(2016年8月に再任、任期は2020年8月まで)

# セルビア議会勢力図(定数250 主要会派別)

2017年4月1日現在

## 与党(160議席)

### 左派

セルビア社会党  
(SPS) : 23



イビツァ・ダチツチ  
(Mica Dacic)  
旧共産党系

社会主義者運動  
(PS) : 5



アレクサンダル・ヴリン  
(Aleksandar Vulin)

### 中道左派

セルビア社会民主党  
(SDPS) : 10



ラシム・リヤイツチ  
(Rasim Ljajic)

統一年金者党  
(PUPS) : 9



ミラン・クルコバビッチ  
(Milian Krkobabic)

## 親EU

### 中道右派

セルビア進歩党  
(SNS) : 102

アレクサンダル・ヴチッチ  
(Aleksandar Vucic)  
(首相)



トミスラフ・ニコリッチ  
(Tomislav Nikolic)

大統領

議長

マヤ・ゴイクビッチ  
(Maja Goljkovic)



統一セルビア  
(JS) : 5



ドラガン・マルコビッチ  
(Dragan Markovic)

ボイボズイナ・ハンガリ  
一同盟 (SVM) : 5



イスタン・パストル  
(Istan Pastzor)  
ハンガリー系  
少数民族政党

無所属 : 1

## 野党(89議席)

### 中道左派

民主党 (DS) : 15



ドラガン・シュタノバツチ  
(Dragan Suranovic)

社会民主党  
(SDS) : 5



ボリス・タディイツチ  
(Boris Tadic)

「もうたぐさんだ」  
(DJB) : 16



サシヤ・ラドコロビッチ  
(Sasa Radulovic)  
自由主義志向

新セルビア  
(NS) : 5



ベリミル・イリツチ  
(Velimir ilic)

### 右派

ドペーリ : 7



ボシュコ・オブラドビッチ  
(Bosko Obradovic)

セルビア民主党  
(DSS) : 6



ミロシュ・ヨバノビッチ  
(Milos Jovanovic)

## EU懐疑派

### 極右

セルビア急進党  
(SRS) : 22



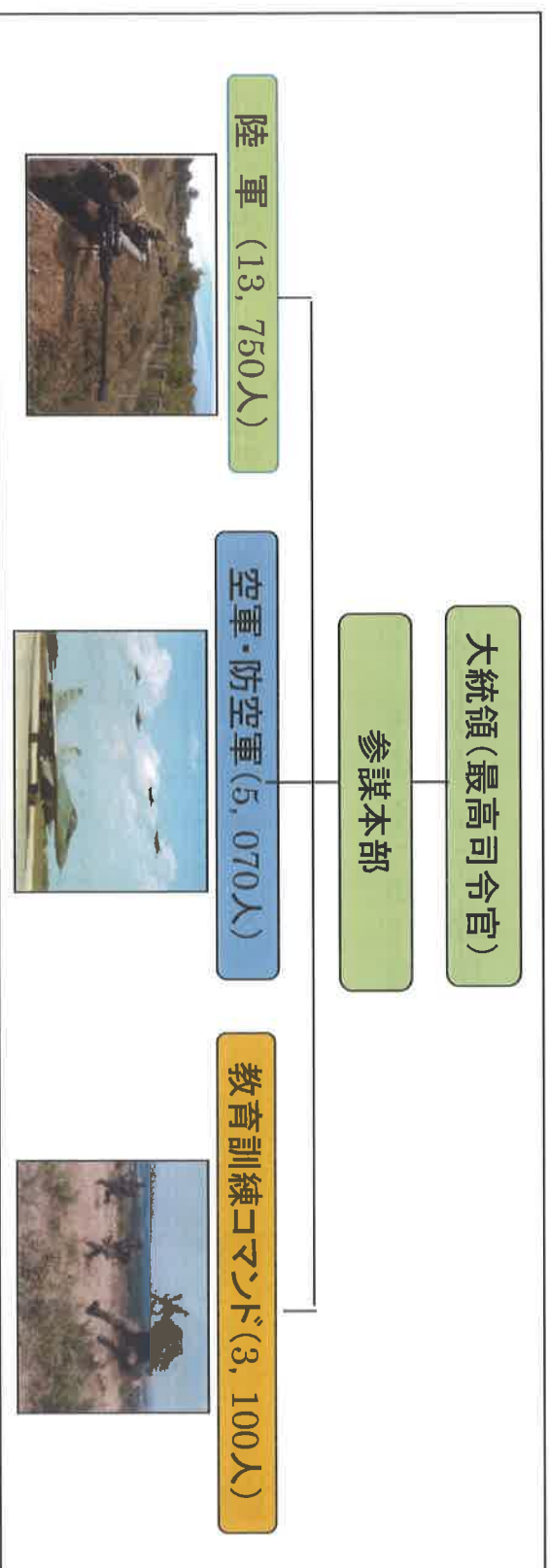
ボイスラフ・シエシエリ  
(Vojislav Seselj)  
親ロシア

無所属 : 2



# セルビアの軍事

1. セルビア軍の構成(2011年に徴兵制を廃し, 志願制)



2. セルビア軍の主要装備(ロシア/旧ソ連製, セルビア/旧ユーゴ製, 米国製が混在)

 <p>M84戦車(セルビア製)</p>	 <p>自走砲NORA B-52(セルビア製)</p>	 <p>ハンビー(Humbee)(米国製)</p>
 <p>Mig29-B(ロシア製)</p>	 <p>練習機 ソコG4(ユーゴスラビア製)</p>	 <p>レーダーシステムAN/TPS75(米国製)</p>

## セルビアの外交①

1. 外交の優先課題は、EU加盟及び地域協力の推進。

(1) EU加盟

2014年1月に交渉開始。2017年3月時点で、コソボ問題、財政規律、司法及び人権など8つの個別交渉分野(章)について交渉開始、うち1つにつき交渉を暫定終了。

セルビアのほか、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、コソボ、アルバニアもEU加盟を指向(いわゆる「西バルカン」6カ国)。

(2) 地域協力

地域諸国間の和解に積極的なブッチ首相の働きもあり、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ等との関係改善に向けた動きが進んでいるが、民族間の対立感情は根深い。

2. 一方、ロシアとの伝統的友好関係を重視。ウクライナ問題に関しては、対露制裁に参加せず。軍事的中立宣言を行い、NATOに加盟する意向無し。

3. 中国との関係が急速に緊密化。2016年6月に習近平中国国家主席がセルビアを訪問、「包括的戦略パートナーシップ」に署名。

# セルビアの外交②

## ハンガリー

**クロアチア**

- ・かつての紛争当事国
- ・歴史問題
- ・クロアチア国内セルビア人の扱い

**ボスニア・ヘルツェゴビナ**

- ・かつての紛争当事国
- ・ボスニア国内セルビア人の分離主義的傾向

大きな影響力

**セルビアはコソボ独立を認めず**

- ・コソボのセルビア系住民の扱い



(欧州理事会ウエブサイトより)

EU



(欧州委員会ウエブサイトより)

- ・現在のセルビアの最重要目標はEU加盟
- ・EU加盟に向けた国内改革を推進
- ・EU加盟交渉を通じて, EUはセルビアに対し大きな影響力を有する
- ・EU加盟国の大部分がコソボ独立を承認
- ・EU加盟国の大部分がコソボ未承認
- ・EU仲介の下でコソボとの関係正常化に向けた対話を実施中



(ロシア大使館ウエブサイトより)

## ロシア

- ・伝統的友好国
- ・セルビア国民の多くは親露的
- ・同じスラヴ民族, 正教会
- ・セルビアは対露制裁に参加せず
- ・ロシアはコソボ未承認

## 米国



(米ホワイトハウスウエブサイトより)

- ・ユーゴ紛争, コソボ紛争では敵対
- ・コソボ独立を主導したのは米国であるとセルビアでは見なされている
- ・現政権は基本的に米国に対し友好的
- ・国民の間では反米感情が根強い

## 中国



(新華社通信ウエブサイトより)

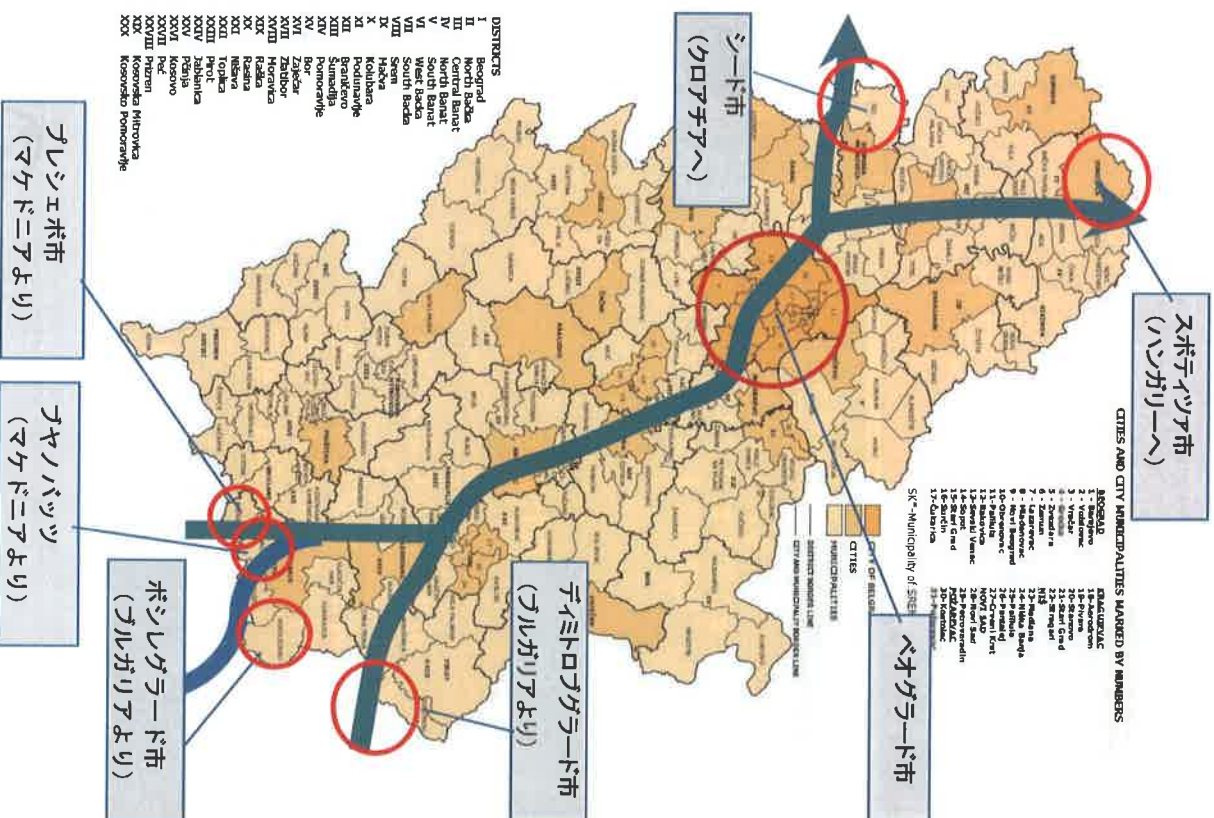
- ・近年, 急速に関係が緊密化
- ・習近平国家主席がセルビア訪問 (2016年)
- ・包括的戦略パートナーシップ締結 (2016年)
- ・中国はコソボ未承認

加盟が最重要目標

コソボ

# 難民情勢

- 2015年以降、マケドニア及びブルガリアからセルビアに入り、ハンガリー及びクロアチアに移動する中東難民が激増(総数約75～90万人)。
- 2016年3月以降、①トルコからギリシャに越境する難民をトルコに送還し、同数のシリア人をEUにて受け入れるとしたEUトルコ間合意、②スロベニア、クロアチア、セルビア、マケドニアが有効な旅券及びビザを有していない難民の入国を禁止する措置(「バルカンルート」閉鎖)により、セルビアに流入する難民の数は激減。
- セルビアからの難民の流出先であるハンガリー及びクロアチアはセルビアとの国境を閉鎖。ハンガリーは、平日一日あたりの入国者を10人に限定。クロアチアへの難民の通過は事実上できない状態。
- 現在も毎月約700人の難民がセルビアに流入。セルビアに滞留する難民は2016年4月には約1,000人であったが、2017年3月には約7,900人まで増大。このうち約6,800人が難民施設、残り約1,100人の大半がベオグラード市内の駅周辺や空倉庫等にて生活。
- これまでセルビア政府は、自国に流入する難民に対し人道的かつ責任ある対応(強制退去措置なし。17の難民施設で人定事項の登録作業、宿泊場所、一日3度の食事及び医療サービスの提供。)。こうした対応を国際社会も高く評価。
- しかし、セルビア政府は、難民施設の運営や国境管理の強化等のため大きな負担を余儀なくされており、地方自治体にとっても廃棄物の増加への対応や医療サービスの提供等が大きな負担。



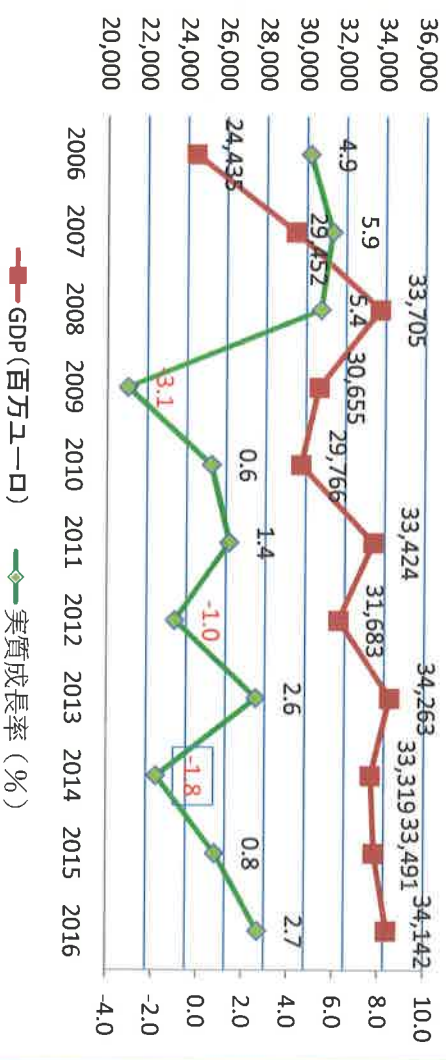
## セルビア経済概況

- ▶ セルビア経済は、欧州債務危機以前のレベルまで回復した。今後、拡大局面に入ると予測される。成長率は、2014年の-1.8%から、2015年は0.8%のプラスに転じ、2016年には2.7%を達成した。今後、2%後半から3%台の成長が見込まれている。
- ▶ 政府による積極的な経済施策（①経済改革、②民間部門支援、③財政健全化）により、経済状況は改善した。国際金融機関からの好評も得て、外国投資の獲得にもつながっている。
- ▶ 慢性的な財政赤字、公的債務残高の増大、高い失業率（特に若年層）への実効性ある対策が課題となっている。
- ▶ 構造改革（国营・公営企業の整理、公的部門の人員削減等）及び金融改革（不良債権処理等）への取り組みは遅れている。
- ▶ 国内産業は好調。自動車及び部品、機械製造等の製造分野、電力等のエネルギー分野が牽引する。農業分野も今後の成長の可能性がある。
- ▶ 貿易主要相手国は、EU諸国（依存率60%超）、近隣諸国、ロシア等の貿易協定締結国。貿易額は輸出入とも増加傾向にあるが、収支は恒常的に赤字。
- ▶ 外国投資は回復傾向にある。EU諸国からの直接投資が70%超を占める。

# セルビア経済概況

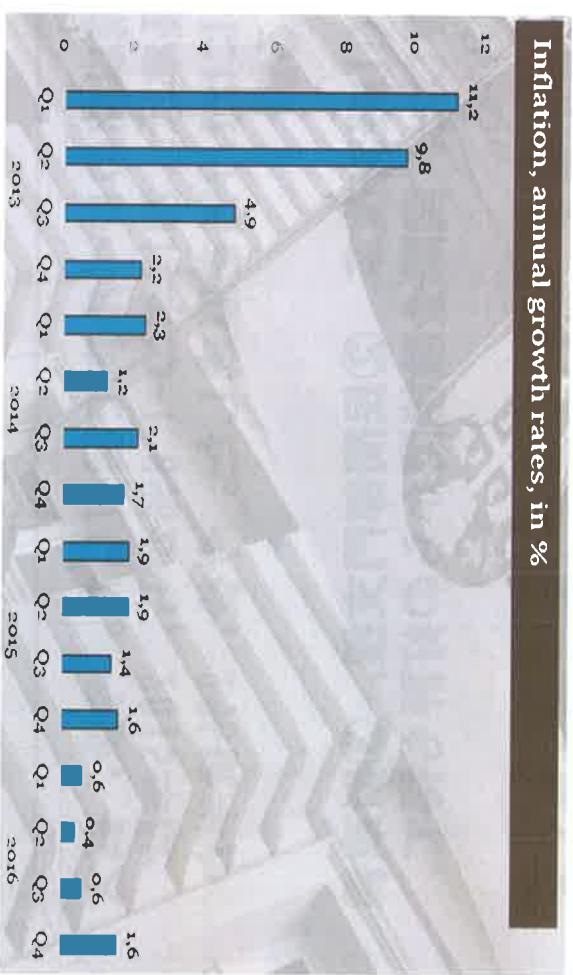
## 1 経済成長：

GDPは、債務危機以前のレベルまで回復。2014年のマイナスから、2015年にはプラスに転じ、2016年には2.7%の成長を達成した。



## 2 インフレーション：

欧州経済の影響を受け、物価上昇は低調（2016年末1.6%）。セルビア国立銀行はインフレーション目標率を3.0%（±1.5%）に下方修正した。

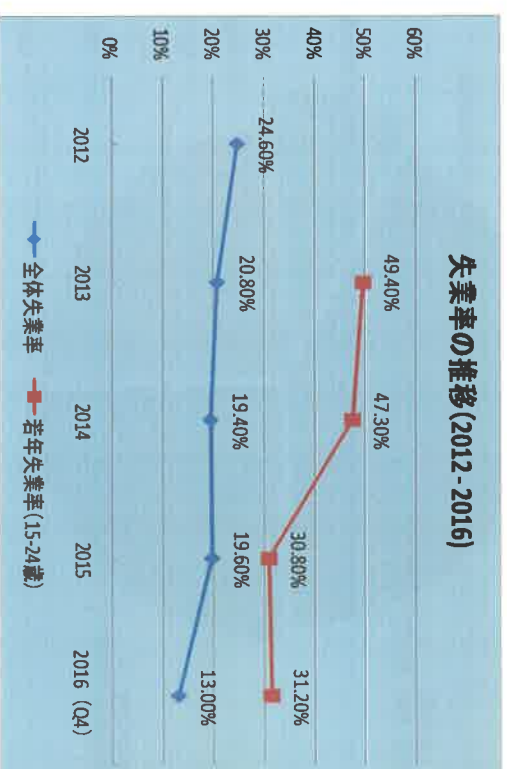


出典：セルビア財務省

## セルビア経済概況

### 3 失業率：

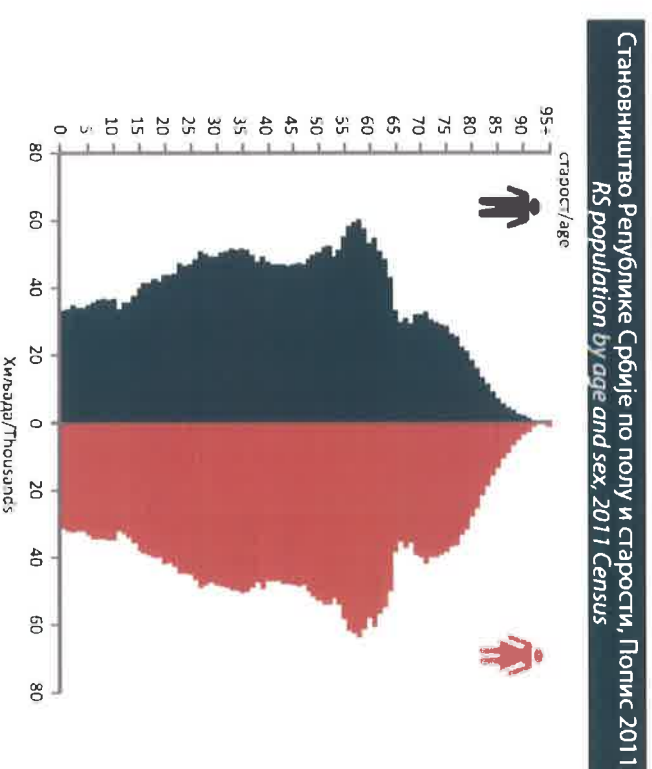
全体失業率は改善の傾向にあるものの  
若年失業率は依然として高水準に  
とどまっている。



出典：セルビア統計局

セルビアの人口 (2011年国勢調査)		
	合計	割合 (%)
総人口	7,186,862	100
性別		
男性	3,499,176	48.69
女性	3,687,686	51.31
年齢層		
0-14	1,025,278	14.27
15-64	4,911,268	68.34
65歳以上	1,250,316	17.40
平均年齢	42.2	-
平均寿命		
男性	72.6	-
女性	77.7	-

出典：セルビア統計局



出典：セルビア統計局

出典：セルビア統計局

# セルビア経済概況

## 4 財政：

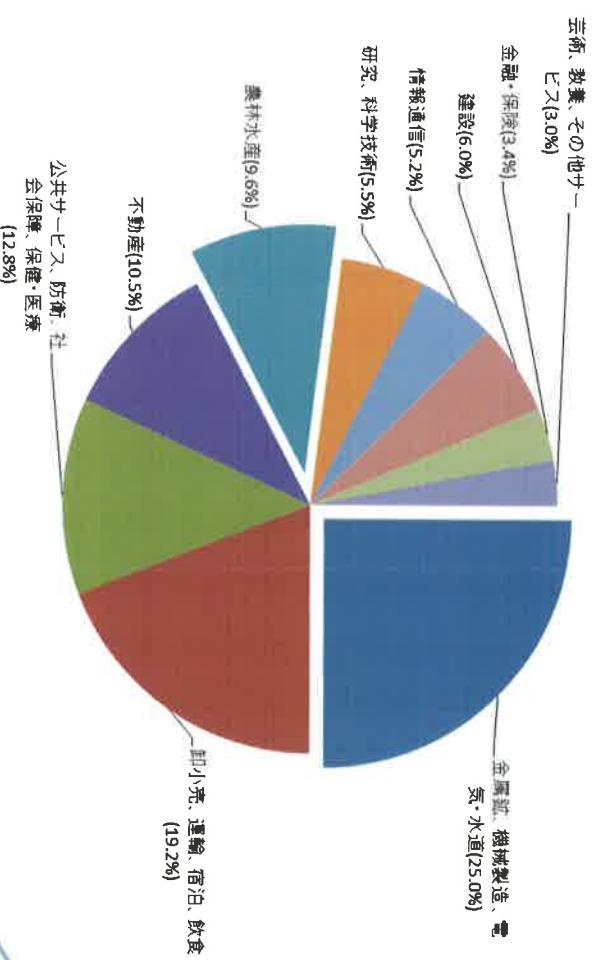
財政は安定しているものの  
収支は恒常的な赤字。  
政府の支出削減，徴税強化等  
の努力により，2015年以降，  
赤字は減少。

	2013	2014	2015	2016
歳入	1兆5,380億RSD 136億EUR	1兆6,208億RSD 138億2千万EUR	1兆6,943億RSD 140億3千万EUR	1兆8,427億RSD 149億7千万EUR
歳出	1兆7,502億RSD 154億7千万EUR	1兆8,789億RSD 160億2千万EUR	1兆8,440億RSD 152億7千万EUR	1兆8,997億RSD 154億3千万EUR
収支(歳入-歳出)	△2,122億RSD △18億7千万EUR	△2,581億RSD △22億EUR	△1,497億RSD △12億4千万EUR	△570億RSD △4億6千万EUR
財政赤字 対GDP比率	5.5%	6.6%	3.7%	1.4%

注：速報値  
出典：セルビア財務省

## 5 主要産業：

機械製造（自動車・機械製造）  
電気・水道（電力）  
農林水産（穀物・果物，  
家畜生産）





## セルビア経済概況

### 6 貿易：

輸出入共に増加傾向にあるが貿易収支は、恒常的に赤字状態にある。

	2012	2013	2014	2015	2016
貿易総額	235億5,560万	264億6,570万	266億8,330万	284億2,120万	308億1,930万
輸出	87億3,890万	109億9,670万	111億5,700万	120億2,840万	134億2,970万
輸入	147億1,670万	154億6,900万	155億2,630万	163億9,280万	173億8,960万
貿易収支 (輸出-輸入)	△59億7,780万	△44億7,230万	△43億6,923万	△43億6,440万	△39億5,990万

(単位:1-11, 出典:セルビア財務省)

### 貿易品目：

輸出入ともに首位は自動車。輸入品目では機械類、エネルギーが上位を占める。輸出品目では機械類のほか、農産品が上位に。


2016年1-12月	輸出	輸入
1	自動車(10.2%)	自動車(9.6%)
2	電気機械類, 家電(8.3%)	石油, 石油製品(5.5%)
3	野菜, 果物類(5.4%)	電気機械類, 家電(4.7%)
4	穀物, 穀物調製品(4.7%)	一般工業機械類(3.4%)
5	発電機, 発電装置(4.5%)	医療機器, 医薬品(3.4%)
6	非鉄金属(4.0%)	繊維加工品(2.8%)

出典:セルビア財務省

## セルビア経済概況

主たる貿易相手国：

EU諸国（独，伊），ロシア，  
近隣諸国（B・H）等の貿易  
協定締結国。  
EU諸国への貿易依存率は  
60%超。

	2016年1-12月	貿易総額	輸出額 (セルビアから)	輸入額 (セルビアへ)
1	 ドイツ	39億8530万	17億5010万	22億3520万
2	 イタリア	37億4640万	19億5420万	17億9220万
3	 ロシア	20億8610万	7億1800万	13億6810万
4	 B・H*	15億2460万	11億1860万	4億600万
5	 中国	14億7210万	2290万	14億4920万
6	 ハンガリー	12億5790万	4億5680万	8億110万
参考	日本	1億5290万	4980万	1億310万

\* B・H:ボスニア・ヘルツェゴビナ

(単位:2-D, 出典:セルビア財務省)

# セルビア経済概況

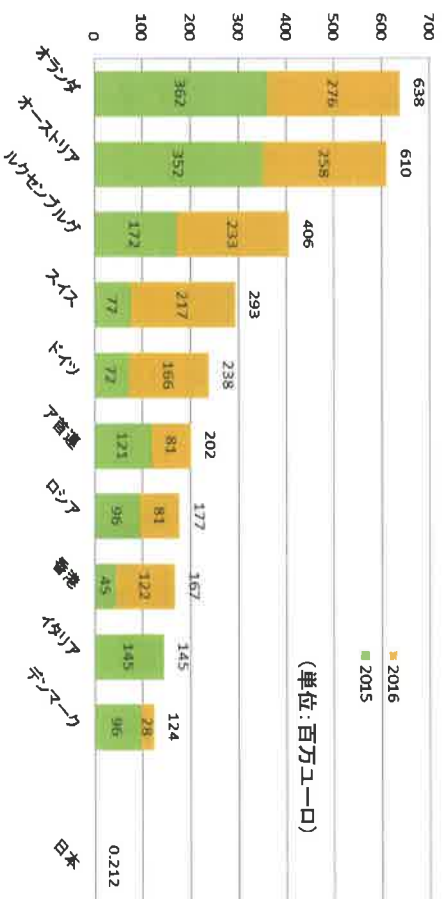
## 7 外国投資：

低調だった外国直接投資は、近年回復傾向にある。直接投資額全体に占めるEU加盟諸国からの割合は70%を超える。

対セルビア外国直接投資の推移(2012～2016)



主要国別対セルビア直接投資(2015,2016)

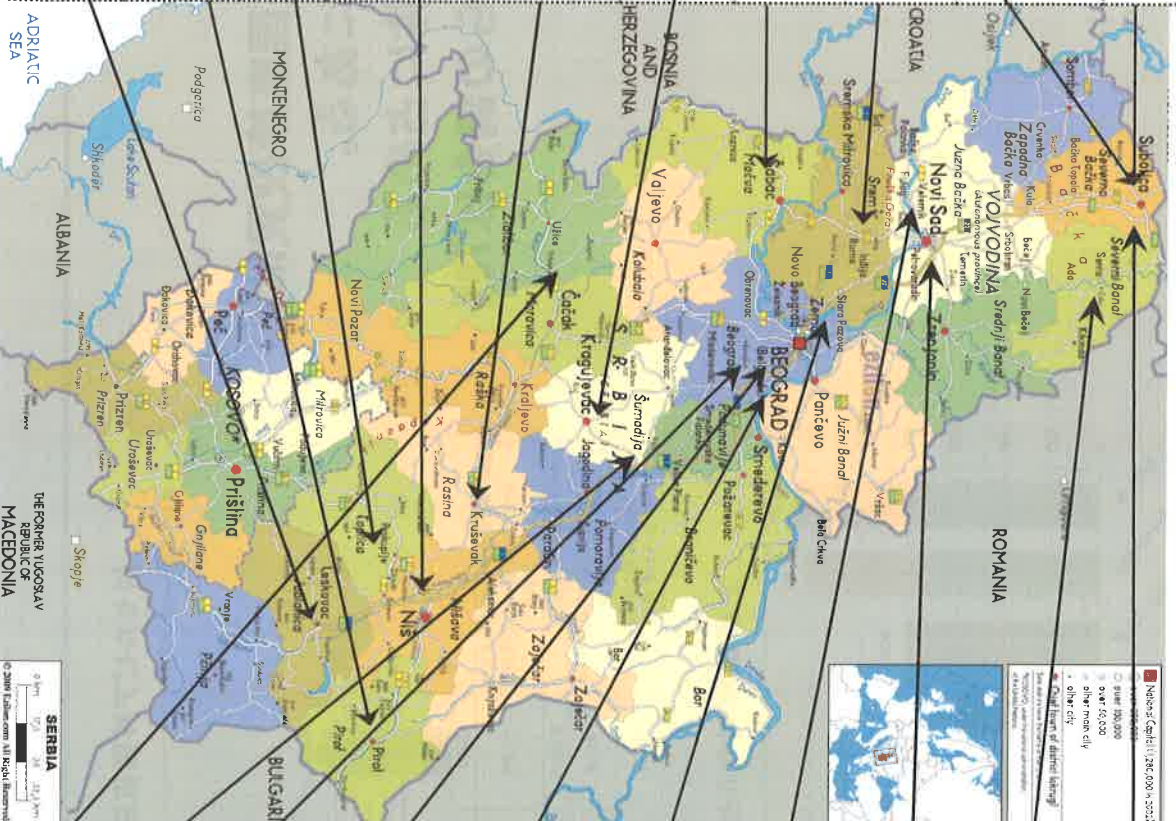


(出典：セルビア国立銀行)

# セルビア経済概況

## 主要外国企業投資例

 コンチネンタル (独)	自動車部品 (スホテイツツテ)
 ノーマグループ (独)	自動車部品 (スホテイツツテ)
 ハッチソン (仏)	自動車部品 (ルマ)
 ヤザキ(日)	自動車部品 (シヤバツツ)
 フイアット(伊)	自動車 (クラゲエバツツ)
 クーパータイヤ (英)	タイヤ (クルシエバツツ)
 ジョンソンエレクトリック トリツク(中)	自動車部品 (ニシュ)
 レオーニ(伊)	自動車部品 (ゾロクナリエ)
 ミシュラン(仏)	タイヤ (ピロツト)
 ヤマハ ユーラ(韓)	自動車部品 (レスコバツツ, ニージュ他)



 シーメンス(独)	電気機械類 (スホテイツツテ)
 JTI(日)	紙巻きたばこ (セツタ)
 ハイネケン(蘭)	ビール飲料 (ノピサド)
 カールスバーグ(丹)	ビール飲料 (パチュカ・パランカ)
 ネスレ(瑞西)	加工食品製造 (スルチン他)
 テレース(白)	食品卸小売 (ベオグラード他)
 テレノール(芬)	電気通信サービス (ベオグラード他)
 イケア(瑞典)	家具小売 (ベオグラード)
 パナソニック(日)	家電部品 (スビライナツツ)
 テトラ・パツク (瑞典)	包装容器 (グラジ、 ミトロバツツ他)

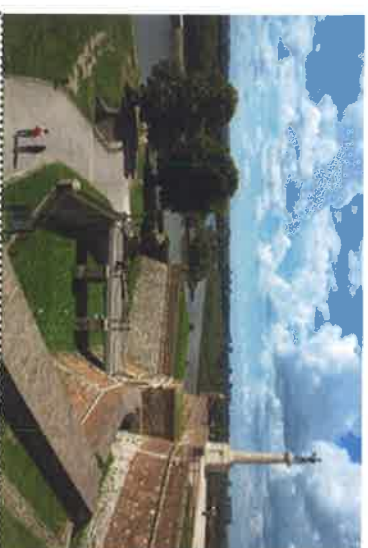
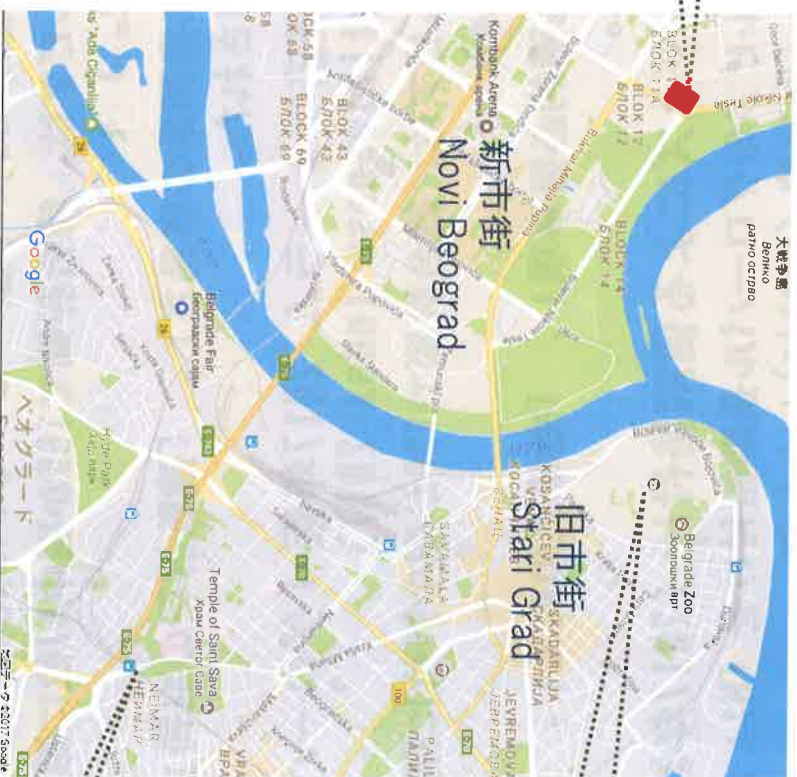
## セルビア経済概況

### 8 国際機関等によるセルビアの投資・ビジネス環境に対する評価

- ✓ 世界銀行 2017年版 「ビジネス環境の現状」 (Doing Business 2017)
  - ・セルビアは、総合評価で160か国中47位に順位が上昇 (2016年版では54位。日本は32位。)
  - ・「事業開始の容易さ」, 「建設許可の取得」, 「財産の登録」の3項目での改善が評価された。
- ✓ 世界経済フォーラム 2017年版 「グローバル競争力指標」 (Global Competitiveness Index 2017)
  - ・セルビアは、総合評価で138か国中90位に順位が上昇 (2016年版では94位。日本は8位。)
  - ・「基礎的必要事項」, 「効率性の向上」, 「革新及び洗練度」の3項目で評価を上げた。
- ✓ ムーデイズによる信用格付け (2017年3月改定)
  - ・セルビアのグローバル長期格付けを「B1」から「Ba3」に引き上げ、格付けの見通しを「安定的 (Stable)」とした。

# 首都ベオグラード

日本大使館



## カレメグダン公園

ドナウ川とサヴァ川の交流地点に位置する。元は要塞。現在は市民の憩いの場。

Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS



## 聖サヴァ教会

セルビア正教会の教会。正教会の中で世界でも最大級のもの。

Photo: Dragan Bosnjic, Arhiva TOS

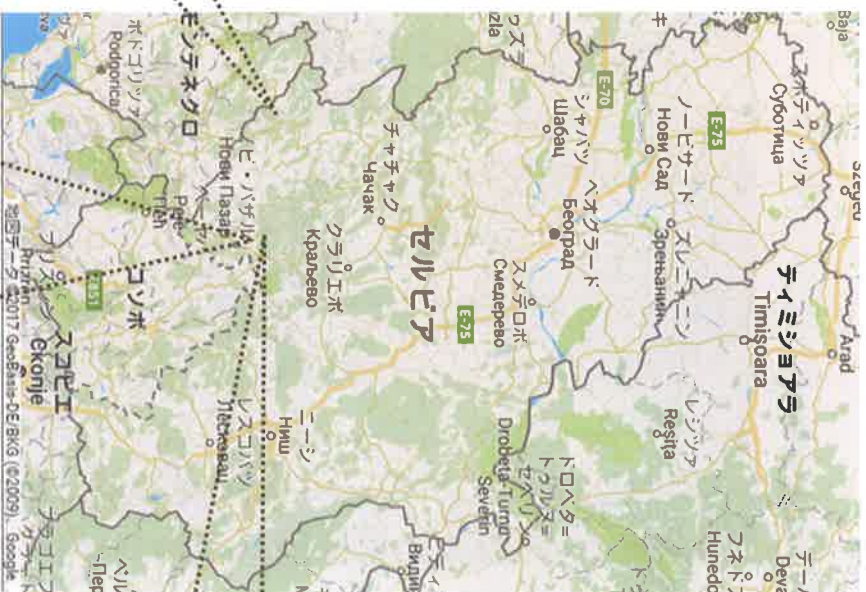
# セルビアの修道院とフレスコ画



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

## ホライト・エンジェル

ミレシエヴァ修道院に保存される、中世ヨーロッパを代表するフレスコ画の1つ。



Google Map

## スタリ・ラスとソポチャニ修道院

### ★ユネスコ世界遺産

スタリ・ラスは中世セルビアの国家ラシユカの最初の首都の一つ。ソポチャニ修道院(左写真)は同地域に13世紀に建てられた修道院。美しいフレスコ画(右写真)が有名。



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

## スタラニツァ修道院

### ★ユネスコ世界遺産

セルビア中央部に位置する最大級のセルビア教会の修道院。12世紀に建設され、13～14世紀のフレスコ画が有名。



Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS



Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS

# セルビアの自然

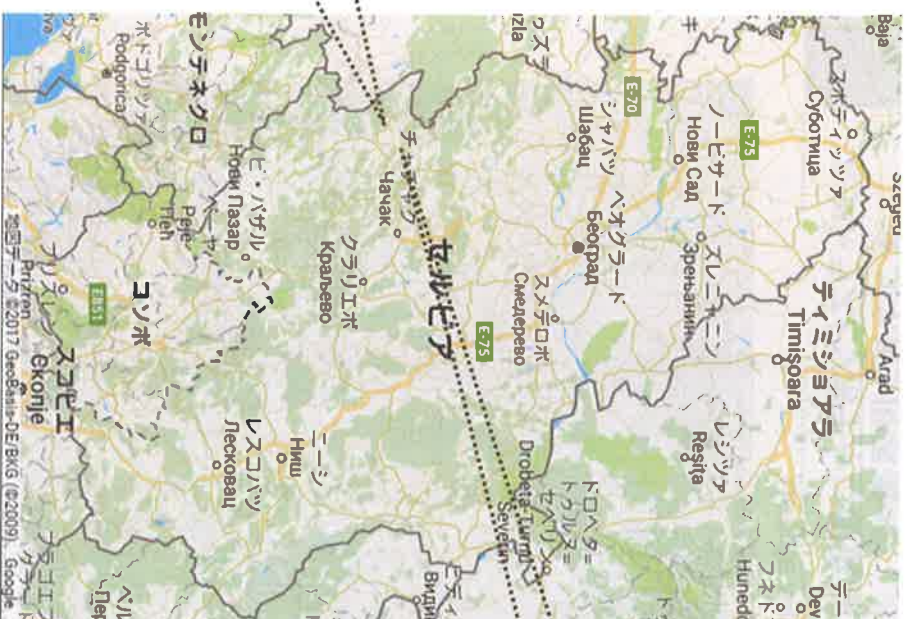


初夏のヴォイヴォディナ平原ではヒマワリが咲き誇る。

**スラタイボル**  
冬はスキー場として、夏は避暑地として人気の山のリゾート。



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS



Google Map



**オチヤルスコ・カブラルスカ渓谷**  
オチヤル山、カブラル山とモラヴァ川が織りなす全長15kmの渓谷。付近には30を超える中世の修道院がある。

Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

コウノトリなどの野鳥も比較的頻繁に見られる。



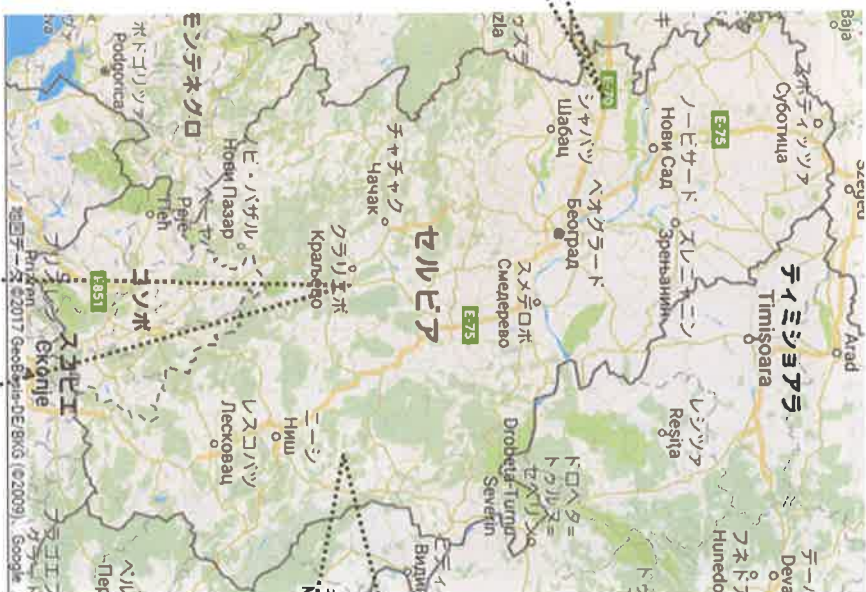
# セルビアに見る古代ローマ



## スィムスカ・ミトロヴァツァ

古代ローマ末期の4つの首都の1つ「シルミウム」が栄えた土地であり、6人のローマ皇帝を輩出している。

Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS



Google Map

## ザルニャチュカ・バーニャ

ローマ時代から知られていたとされる、セルビアで最も有名な温泉の1つで、人々が保養、治療に訪れる。温度は高くない。



## ガムジグラード・ロムリアーナ

### ★ユネスコ世界遺産

古代ローマ皇帝ガリリクスの生誕地の遺跡。ローマの四分統治(テトラルキア)時代の宮殿建築様式の典型として最も保存状態が良い例の1つ。

Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS



Photo: Agencija Valjevac, Arhiva TOS

# セルビアのフェスティバル

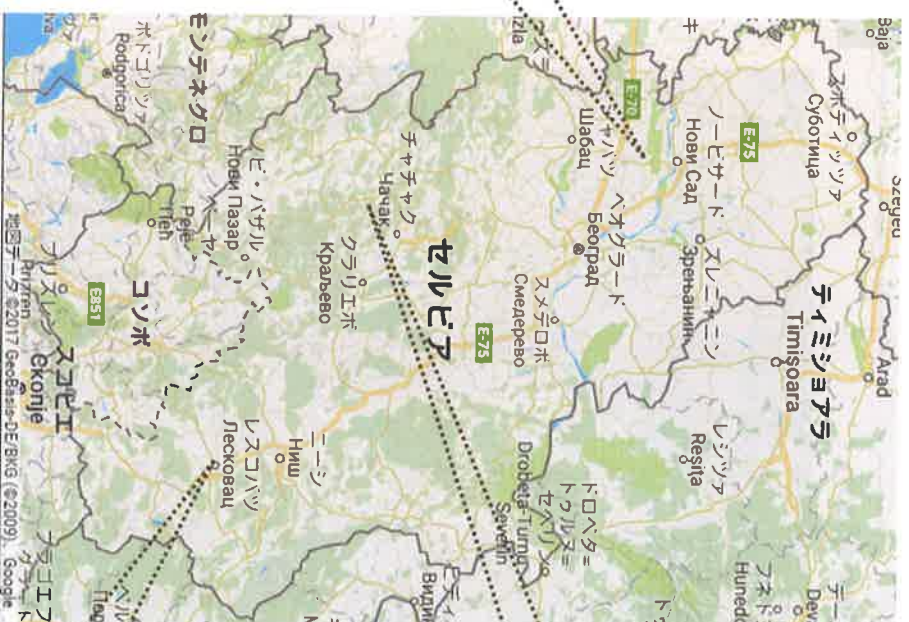
セルビア人は陽気でお祭り好きの人が多く、各地で特徴のあるフェスティバルが開催されている。以下はいずれも数十万人の参加者を集める人気のイベント。



## EXIT(EXIT)

ノヴィ・サドのペトロヴァラディン要塞で2000年から毎夏開催されている野外ロックフェスティバル。世界的に人気を博すようになり、多くの観光客が本フェスティバルを目的にセルビアを訪れる。

Photo: Exit photo team, Arhiva TOS



Google Map



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

## トランペット・フェスティバル

セルビア中部のグーチャヤで1961年から続くトランペットを中心としたグラス・バンドのフェスティバル。



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

## クルル・フェスティバル

セルビア風バーベキューが有名な南部のレスコヴァツで1989年から行われる、バーベキューの祭典。

## セルビアの偉人、有名人



Photo: Nikola Tesla Museum

**ニコラ・テスラ**  
(1856-1943)

米国に渡り、交流電流やラジオを発明した科学者。ベオグラードの空港は彼の名が冠されている。



**イヴォ・アンドリッチ**  
(1892-1977)

セルビア唯一のノーベル賞受賞者(文学賞)。「ドリナの橋」などが有名。ユーゴスラビア王国時代の外交官。



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

**エミール・クストリツァ**  
カンヌ映画祭でパルムドール(最高賞)を2度受賞している映画監督。「トナパハ、出張中!」「アンダーグラウンド」

## セルビアのスポーツ

セルビアはスポーツが盛んで、特に球技はワールドクラス。長らく世界ランク1位の座にあったテニスのノバク・ジョコヴィッチ選手はセルビア出身。また、水球はリオ五輪金メダル、世界選手権優勝3回、欧州選手権優勝6回、バスケットはリオ五輪銀メダル、ワールドカップ優勝2回、欧州選手権優勝3回(いずれもユーゴ分裂後の90年代以降の記録)等、輝かしい記録を誇る。

日本の武道も人気が高く、柔道、合気道、空手、剣道等、あわせて万単位の武道人口を抱える。

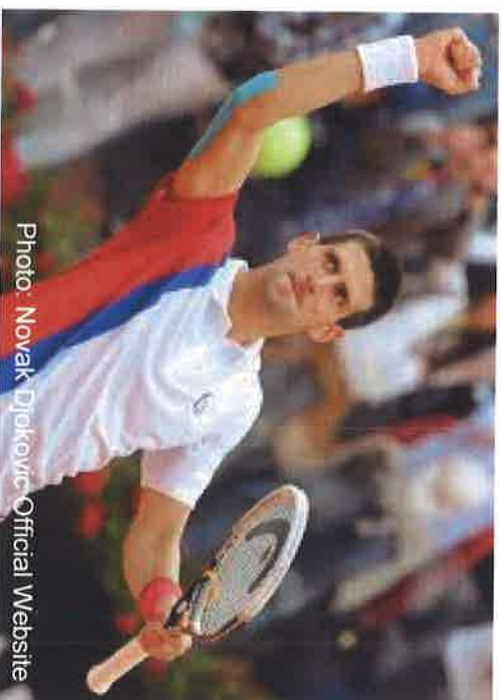


Photo: Novak Djokovic Official Website

ノバク・ジョコヴィッチ選手は地元で英雄的扱い。東日本大震災の際にはチャリティーマッチを企画するなどして日本を応援した。



ALLIANCE PHOTOS

名古屋グランパス活躍したストイコビッチ氏は、2015年、リーグの選手及び監督として初めて、外国人叙勲の受章者となった。

# セルビアの食べ物

セルビアの食文化は、歴史的に、オーストリア＝ハンガリー、トルコ等の影響を受けている。農業国であり、肉、野菜、果物に恵まれている。

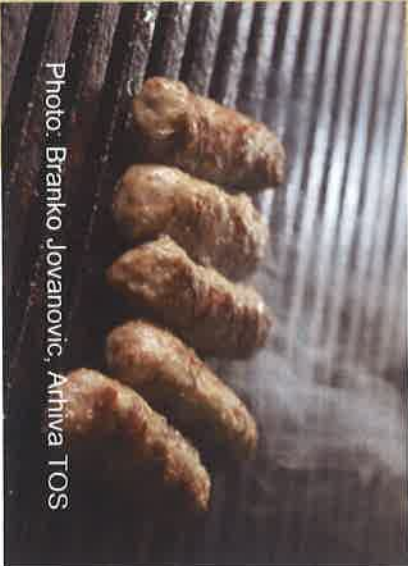


Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS

トルコの影響を受けたチェヴァプチチ。(ひき肉を棒状に成形して炭火焼にしたもの。)

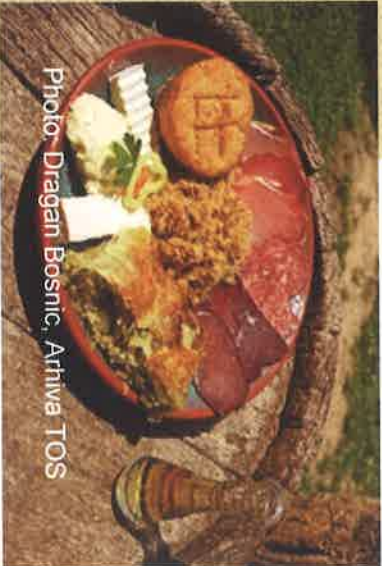


Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS

セルビアの典型的な前菜盛り合わせ(ハム、サラミ類、チーズ等)。

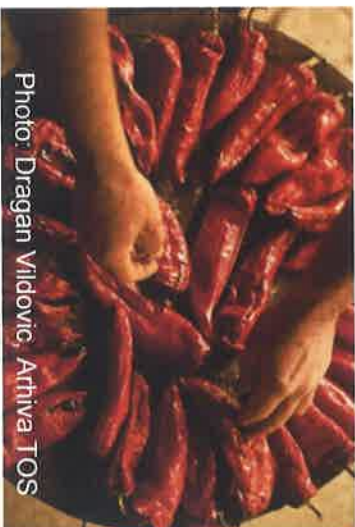


Photo: Dragan Vildovic, Arhiva TOS

パプリカはセルビアの特産品の1つ。焼いてマリネにしたり、アイザアルというペーストにしたり、様々な料理に使われる。



Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS

牛乳を温めたときにできる膜を重ねて作る「カイマク」。

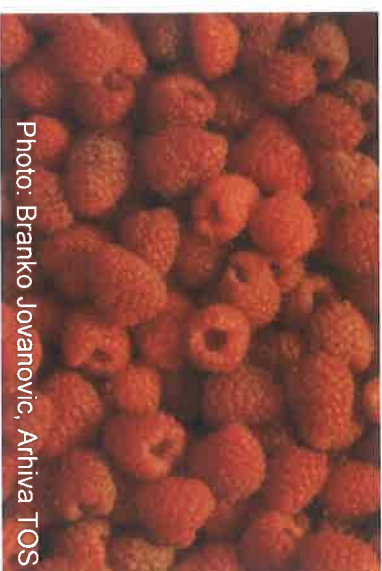


Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS

ラズベリーの生産は世界でもトップクラス。日本にも輸出している。

## セルビアのお酒

セルビア特産の酒「ラキヤ」は、プルーンをはじめ、杏、洋梨など様々な果実から作られる。40度を超える強いものが多く、食前酒などとしてよく飲まれている。また、セルビアの気候はワイン造りに適しており、全土で白、赤等のワインが作られている。北部のフルシユカ・ゴラ地方等がワインの産地として有名。ビールも多くの国産ブランドがあり、若者等によく飲まれている。



Photo: Branko Jovanovic, Arhiva TOS



(右)ラキヤを飲むのによく使われる伝統的なグラス。  
(左)プルーンを原料としたラキヤ。



Photo: Dragan Bosnic, Arhiva TOS



(左)ワイン畑の様子  
(右)セルビア特産の、ハーブで香りつけされたデザートワイン、ベルメット。タイタニック号でも饗されていたとの話もある。